

29年3月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 3月1日～ 29年3月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
仕入 動向	国産材製材品	△ 12.5	12.5	△ 6.3
	外材製材品	△ 6.3	6.3	6.3
	構造用集成材	△ 21.4	7.1	7.1
消費 動向	国産材製材品	△ 12.5	12.5	△ 6.3
	外材製材品	△ 18.8	△ 6.3	0.0
	構造用集成材	△ 28.6	△ 14.3	△ 7.1
在庫 動向	国産材製材品	△ 12.5	△ 6.3	△ 12.5
	外材製材品	0.0	6.3	△ 12.5
	構造用集成材	7.1	0.0	△ 7.1

・プレカット加工用部材の仕入れは3月は減少、4月、5月はやや増加。

・プレカット加工用部材の消費は全般的に減少傾向。

・プレカット加工用部材の在庫は、国産材製材品は3カ月連続で減少、外材製材品及び構造用集成材は3月、4月は横ばいないしやや増加が、5月は減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/3月	4月	5月
受注	△ 28.6	0.0	6.3
加工	△ 28.6	0.0	6.3
受注残	△ 35.7	△ 12.5	△ 6.3

・プレカット工場の受注及び加工は3月が減少、4月は横ばい、5月は増加。

・プレカット工場の受注残は3カ月連続で減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・国産材の仕入れは高水準を維持、外材は先々値上げがありそう。暖かさと共に消費拡大。月を追うごとに在庫量は増加。
・外材の入港遅れが月を追うごとに大きくなっている。それにより仕入れの見通しが大きくブレてきている。外材の消費が横ばいになるのが、翌月か、翌々月かがまだ見えない。在庫は、外材製材品と構造用集成材を横ばいとしたが、外材の入港遅れと受注量の見通しに不安定な部分あり。
・新年度に向けて、仕事が増加、仕入れも消費も4月、5月と増加、基本的に邸別発注なので仕掛け品の在庫のみ。

(受注動向)

・春遠からじ、久々の物件増。
・受注が回復するのは、4月か5月か、まだ目途が立たない。
・減速ぎみ。
・補助金（県産材、市産材等へ）の影響等で、新年度から受注が上向く5月も、同じ傾向が続く。